（様式）提出用

園番号　６０３

令和５年度　奈良市立済美幼稚園　研究実践概要

園 長 名　中田　佐織
全園児数　　１５名

１．研究主題

「心身ともに健やかで、たくましく生きる幼児の育成」

２．研究年度　　２年度

３．研究主題設定理由

核家族化や少子化により、人との関わりがどうしても希薄化してしまう中で、子どもたちが一人一人個性を発揮しながら、思う存分にしたいことを見つけ、周りの環境（ひと・もの・こと）に主体的に、意欲的に関わろうとする子どもの育成を目指して本主題を設定した。

４．具体的な研究内容

①研究のねらい

なかまと共に、様々なひと・もの・こととの関わりや触れ合いを通して、体験や経験を積み重ね、豊かな心を育む。また、集団の中で自己発揮したり、子ども自らが主体的、意欲的に活動しようとしたりする中で、新たなことに挑戦したり、最後までやり遂げたりする力を育てる。

②研究の重点

・研究主題について共通経験を図り、具体的な取り組みの方法や保育内容を検討する。
・生活や遊びの中で、直接的・具体的な体験や経験を通して、人とかかわる力や思考力、感性や表現する力を育み、生きぬく力の基礎を培う。
・遊びの中で十分に体を動かし、たくましい心と体をはぐくみ、自ら「やりたい」と取り組めるような保育と環境の工夫をする。
・異年齢で交流できる機会を増やしたり、家庭・地域・小学校・保育園との連携を深めたりして、さまざまな環境や人とのかかわりを通して、多様な経験ができるように計画し、保育の充実を図る。

③活動の方法

＜事例１＞『虫取り作戦』５歳児　７月

生き物が大好きなそらぐみは、5月ごろからザリガニ釣りに夢中で「どうやったらもっと釣れるかな」「餌をいろんなところに仕掛けておこうか」「今度はスルメをつけてみよう」など作戦を考えながら取り組んできた。ほかの昆虫もよく目にするようになり、数名の子が「先生、ビニール袋とひも使ってもいい？」「虫とり作戦するから」「この箱も使えるな」と、なにやら自分達で園庭の中で虫が

いそうな場所を考え、思いを出し合い仕掛けを設置し出した。「バッタはここやな」「はっぱいっぱい入れといたらいいな」「カブトムシはゼリー入れとこう」「雨降ってもいいようにカップにしたほうがいいよ」と友達同士で思いを出し合い、にやにやと顔を見合わせながら準備をしている。虫を捕まえると、次は図鑑で調べ出し、「やっぱり餌は葉っぱやわ。取ってこよう」「これと一緒や！オニヤンマや！」と関心や知識を深め合っている。

【反省・評価】

「どうにかして虫を捕まえたい」という思いから、作戦を考え出した中で、友達と一緒に思いをだしあったり、共有したりしながら自主的に行動している姿が見られた。興味があり夢中になれることを通して、自分達なりに友達同士で思いを出し合ったり、様々な事を試したり、思っていることを実現したりする力が育っていると感じる。主体的に試行錯誤することで、探究心や意欲、学ぶ力などを深めていると感じた。また、身近な生き物に触れることを通して生命のはかなさやありがたさを感じたり、親しみや大切にしようとする気持ちが育ったりしている。

＜事例２＞『みんなでバーベキューだよ』４歳児　１０月

桜の木の下で木の枝を集めて組み、その上に枯葉をのせて遊んでいたので「何してるの？」と尋ねると「バーベキュー！」と答えた。「バーベキューらしくなるといいね。どうしよう」と声をかけると「お部屋にある網とか、お料理のやつ使ったらいいね」と言うので、子ども達と一緒に網と、ままごとコーナーのごちそう、食器、トングや箸を運び出し、ブロックも準備した。網をブロックの上に乗せると「わあ、本当にバーベキューみたい！」と、子ども達はハンバーグやチキンなどを網で焼き、トングでひっくり返して「そろそろ焼けるよ」「私ハンバーグがいい」など、役割をもって会話を楽しみながら遊んだ。そこでテーブルやいすなどが置いてある場所の近くに遊びの場を移して遊ぶことにした。子ども達は「私が集めたドングリ使おう」「葉っぱも拾ってくる」と言いながら自然物を集め、みんなでアルミホイールや切り株も準備した。「ドングリはホイールに入れて焼こう」「これ（切り株）ってステーキみたいやな」「ほら、枯葉を揉むとふりかけになった」など、テーブルを囲んで話しながら楽しく遊んでいた。

【反省・評価】

自分の経験を生かして遊んでいたので、より本物らしくなるように用具を子ども達と準備したことで、本当にバーベキューをしているような雰囲気で楽しむことができた。またテーブルやいすが近くにある場所に移したので、落ち着いて遊ぶこともできた。季節的に園庭にある自然物を子ども達と集め、遊びに取り入れたことで、いろいろなものに見立てたり、気づいたことを知らせ合ったりして会話も弾み、バーベキュー気分を満喫できた。

＜事例３＞『わたしもやってみたい！』４・５歳児　２月

自分の縄をもらったことをきっかけに、自分なりに縄遊びに挑戦するようになり、「Aくんすごいな」「ぼくも１０回跳べたよ」「体をまっすぐしたらいいねんで」と互いに見せたり、認め合ったり、教え合ったりする姿があった。５歳児が大縄での入り跳びに挑戦し、

みんなで並んで入ったり、数を数えたり、縄から走って抜けたりしている姿を見て、４歳児も「私もしたい」「いれて～」と挑戦しに来る姿があった。５歳児は「いいよ」「ここにならんでな」「今だ」（入るタイミングを知らせ背中を押して合図）「できるよ！」と伝えたり、励ましたりしている姿がある。「やった」「できたね」「今度は一緒に跳びたい」「じゃあここに並んで跳んでみよう」「あ～失敗や」「次は１０回いきたいな」と、新たなことにも挑戦しようとする姿がある。

【反省・評価】

出来たことを互いに認め合ったり、伝えあったり、教え合ったりすることで、憧れの気持ちを持ったり、優しさや思いやりの気持ちをもったりする姿につながっている。
そして、できた時にはみんなで喜び合う姿から仲間意識も深まっていると感じる。
また、友だちの姿から刺激を受けたり、励まし合ったりすることで、新たなことや、自分にとって少しハードルが高い事にも、自分のペースで挑戦する力につながっている。
挑戦したことができるという経験を通してひとつひとつ自信を積み重ね、その後も生活の中で様々なことにも意欲的に参加したり、挑戦したりする姿につながっているのを実感した。

５．研究の成果

少人数保育の中で異年齢での交流を意識して多く設けることを意識したり、子どもが意欲的に参加したり、自己発揮できるよう環境に配慮し、職員や保護者地域と連携を図りながら取り組んできた。保育者や友達と一緒に様々な環境に触れ、たくさんの経験を積み重ねる中で、優しさや憧れの気持ちをもち、安心して感じたことを言葉や体で表現したり、自主的、意欲的に物事に参加したり、様々なことに自主的に挑戦するなど姿がみられた。また遊びを進めていく中で「こうしてみたい」「やってみたい」という思いが芽生え、友達や保育者と工夫し、子ども自らが積極的に取り組んだり、挑戦したりする姿につながった。

６．今後の課題

今後も遊びや活動の充実を図り、少人数だからこそ異年齢、家庭や地域、保幼小中等とのつながりを大切に考え、多くの環境と触れ合い、子どもの心に残る体験を積み重ね、心身ともに健やかでたくましい子どもの育成を目指し、保育内容の創意工夫に努めいていきたい。